

北九州市大里地区に現存する鈴木木の「王国」

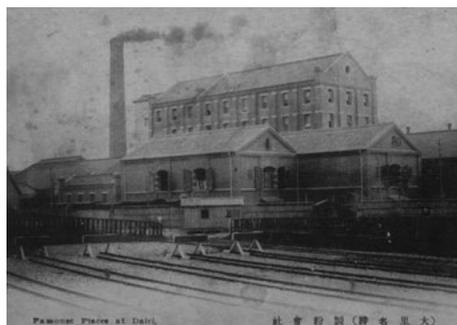
北九州市門司区大里(だいり)は、鈴木商店が神戸の次に大規模進出を果たした地である。また、対岸の彦島にも鈴木商店の工場群があり、金子直吉は神戸と関門海峡は鈴木マークで埋めると豪語した。良質な水、豊富な労働力、筑豊の石炭が狙いであり、交通の面でも魅力的な地で、金子直吉は「商売の基礎は地理的条件が必要だ」と名言を残している。

市史では「日露戦争後、北九州工業地帯の輪郭を取りはじめた。大きな要因が中央資本の進出にあった。最も目覚ましい動きを示したのが、神戸の鈴木商店の大里…」と鈴木商店の進出の経緯を詳しく解説している。大里には、大里製糖所(現・関門製糖)、大里製粉所(その後、現・ニッポンに合併)、帝国麦酒(大日本麦酒を経て、現・サッポロビール)、大里酒精製造所(現・ニッカウヰスキー門司工場)、神戸製鋼所門司工場(現・神鋼メタルプロダクツ)、日本冶金(現・東邦金属)、その他にも製塩所、精米所、精錬所などがあった。一部の企業では、現在でも鈴木商店時代の建物を活用している。

北九州市のWebサイトには、「北九州市門司区大里地区ガイドマップ」が掲載され、「大里に「王国」を築きあげた鈴木商店」と題して、鈴木商店関連史跡を紹介している。同地区の住宅街の一角には、鈴木商店の境界杭を見ることができ、町のいたるところで鈴木商店の威光を感じることができる。



現在の関門製糖(旧・大里製糖所)

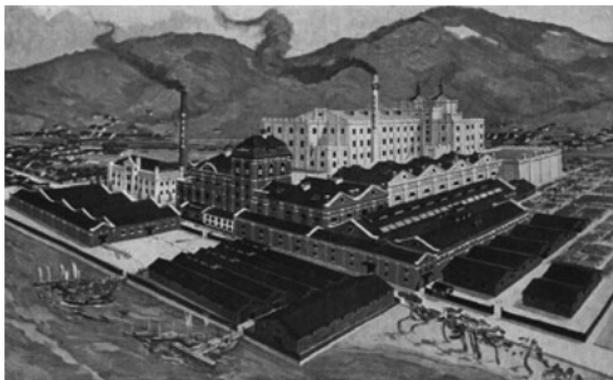


大里製粉所(その後、現・ニッポンに合併)



大里製粉所時代からの倉庫。現在はニッカウヰスキー門司工場(旧・大里酒精製造所)が使用

北九州市大里地区に現存する鈴木の「王国」



大正十四年六月十日 下関製麦所を撮影する

朝日麦酒株式会社 工場

帝国麦酒(現・サッポロビール)



門司麦酒煉瓦館

鈴木商店の
境界杭



神鋼メタルプロダクツ内にある境界杭